

海雲寺 東京都品川区南品川 3-5-21

龍吟山海雲寺は建長 3 年(1251)僧不山(そうふざん)によって開基、はじめは庵瑞林(あんずいりん)といい、海晏寺(かいあんじ)境内にあって臨済宗であった。慶長元年(1596)海晏寺五世分外祖耕大和尚を開山とし曹洞宗に改められ、寛文元年(1661)海雲寺になったもので、ご本尊十一面観世音菩薩を安置し、ご尊像は建長 3 年創立当時、仏師春日の作といわれている。

荒神堂に祀られている千鉢荒神は江戸時代より火の守護神として多くの人々から信仰されています。また、荒神堂内には信徒の奉納した 27 面の扁額があり格天井の中央に龍の図が、その周りに纏図が描かれています。平蔵地蔵は鈴ヶ森処刑場(おしおきば)で番人をしていた乞食の中に正直な乞食がいて、大金を拾い、落とし主を探して届けたが、仲間の乞食から、山分けをすれば乞食も廃業ができたのにと、小屋を追い出されて凍死してしまいました。これを聞いた落とし主が手厚く葬り、地蔵尊を立て供養しましたとのこと。役行者は、左右に前鬼と後鬼を従えた図像が有名です。(新編武蔵風土記稿より)



山門



大明王堂



平蔵地蔵



本殿



本殿の格天井



役の行者像